



秋田の酒を楽しむ

400人が銘酒の数々を堪能。恒例イベント、今年も人



美酒王国・秋田県の日本酒を味わいつくす「秋田の酒を楽しむ会」が、3月6日の午後6時30分から、千代田区丸の内の東京會館で開催されました。会には、およそ400名の日本酒ファンが参加。秋田の食材をふんだんに使った特性和食御膳などとともに、秋田の美酒を堪能しました。春の一夜を彩った、恒例の日本酒試飲イベントをレポートします。



★ 震災から1年。元気な蔵元の姿を見てほしい

「早春の日本酒試飲イベント」として、首都圏の日本酒ファンにはすっかりお馴染みとなった「秋田の酒を楽しむ会」。第8回目となる今回は、県内の26蔵自慢の日本酒や、県のオリジナル酒米「秋田酒こまち」で仕込んだ新酒と、「秋田酵母No12/No15」仕込の清酒などを集めて、華やかな試飲風景が繰り広げられましたが、東日本大震災からほぼ1年という節目での開催とあって、関係者には特別な思いもあった様子。県組合の小玉会長は「幸い、秋田県は深刻な被害は受けなかったが、東北の蔵元として、1年を過ぎた今こうして元気に酒づくりしている姿をぜひ見て欲しかった」と、開催への思いを語っています。



小玉会長

個性派ぞろい、26蔵の日本酒を囲んで春の宴

秋田の酒を楽しむ会



イベントの開幕に先立って、まずは 26 蔵がそろい踏み。「今年の冬は厳しい寒さが続いて、秋田県らしい繊細な酒ができました。秋田の銘酒で春の宵を楽しんでください」と、小玉会長が歓迎の挨拶。



日本酒で乾杯！（発声は秋田県東京事務所の鈴木所長）



パーティは着座制。蕨のとう、鯛つけ焼き、地鶏手羽先焼きなどを詰め合わせた和食膳を着に、お酒が進みます



酒屋唄、日本酒と秋田の名産品が当たる抽選会



出品酒リストを手に、蔵元とコミュニケーション



「日本酒好きのグループ 4 人で参加しました。秋田県のお酒は旨味が豊かでまろやか。蔵元の数も多いので、いろいろな個性が楽しめます。直接杜氏さんを訪ねていくほど、もう秋田の酒にぞっこんです」

